

秦野の霊園計画地

希少植物変種自生

大規模な霊園計画がある秦野市浸沢の八国見山(310㍎)南面区域周辺に自生するカンアオイが、オトメアオイの変種「ナカイカンアオイ」(仮称)であることが分かった。限られた狭い地域で長い間に分化したと推察され、生育する個体数が少ないため絶滅危惧種に匹敵する貴重種と考えられている。希少種の保全は生物多様性の最重要テーマであり、周辺区域の面的な自然保護が必須の課題となった。

ナカイカンアオイ 絶滅危惧種に匹敵

アオイ属の種類と分布」と題した論文を、1984年の「神奈川自然資料第5号」に発表。八国見山周辺のオトメアオイを、変種のナカイカンアオイと仮称し、今後の詳細な検討を提起した。

オトメアオイ(環境省レッドデータブックで準絶滅危惧種)は、主に箱根町の箱根外輪山の内側地域に自生する。内田さんらは長年の調査から、葉などの形状の微妙な差異や、八国見山と箱根では地理的に離れていることを勘案し、オトメアオイの一つの品種としてナカイカンアオイを区別した。

山から西に約1・9㍎の頭高山(303㍎)に自生する「ズソウカンアオイ」(同レッドデータブックで絶滅危惧種)も、やはりオトメアオイの変種。

オトメアオイとナカイカンアオイは葉などの形状や開花時期がほとんど同じで見分けが非常に難しいとされている。このため同調査会がまとめた2001年版「県植物誌」では、ナカイカンアオイはひとくくりにオトメアオイとして取り扱われていた。

カンアオイ属は地面にあって生育する。種子がアリに運ばれるか、大雨で土砂と一緒に流されることでしか移動せず、分布の速度が極めて遅いのが特徴。生育地域が狭いのと他地域のカンアオイ種と交配しないことから、オトメアオイの変種はその土地の気候など生育環境の諸条件で独自に分化したと考えられている。

小田原市にある県立生命の星・地球博物館で学芸員(植物分類学)の勝山輝男・企画普及課長は、「箱根と八国見山周辺のオトメアオイは分布



落ち葉の積もった地表近くで新しい葉を出し始めたナカイカンアオイ—今年9日

【高橋和夫】